

名古屋市立大学大学院経済学研究科 「早期修了プログラム」外部評価シート

評価者：星野 優太・神山 眞一

注) 評価判定は A(優れている)、B(妥当)、C(改善の余地あり)、D(早急な改善が必要)のいずれか。

番号	評価項目	判定	根拠・指摘事項	その他のコメント
1	教育目標			
1.1	教育目標が公開されているか	A	学生募集要項及び大学院パンフレットに、「理念と目的」「アドミッション・ポリシー」の記載があり、適切に公開されている。	
1.2	教育目標は博士後期課程として適切であるか	A	博士後期課程では研究者として高度な専門性を備えた知的人材の育成が行われるが、その面において適切な教育目標が立てられている。特に本研究科では、前期課程と後期課程とをしっかりと区別して授業が開講され、博士後期課程のレベルの維持が図られている。	
2	学生募集			
2.1	学生募集にあたり、プログラムの趣旨を公開・説明しているか	A	学生募集要項の添付書類およびホームページに記載があり、適切である。	
2.2	プログラムの趣旨に沿った履修資格審査が行われているか	B	「専門基礎能力」のほかの6つの項目について判定を行う履修資格審査制度は適切であると思われる。ただし、入学者の「申告シート」と教員の「評価シート」の整合性がいま一つ不明確であり、博士の学位を授与するための学力評価の根拠を明確に示す必要があると思われる。	
3	教育組織・教育体制			
3.1	指導に十分な教員組織が存在するか	A	7つの研究分野系を備え、それぞれの系に演習を担当できる教授等を1名以上配置しており、質の高い研究教育指導が可能となっている。	

3.2	指導体制が適切に機能しているか	A	主指導教員並びに副指導教員を置く体制は、十分かつ丁寧な教育を行う上で非常に有益である。	
3.3	指導プロセスが適切に実行されているか	A	公開セミナー（中間審査）を7月、予備審査を11月、最終試験を1月～2月に設定するなど、段階を踏んで博士論文の質の向上を目指す指導プロセスが設定されており適切である。	
4	履修			
4.1	プログラムに沿った履修指導が行われているか	A	1年間での修了ということで、講義単位を限定して、主指導教員から博士論文の完成に特化した指導が行われており、その意味で本プログラムに即した履修指導が行われているといえる。	
4.2	学力達成度評価は適切になされているか	C	先の外部評価で指摘された通り、6項目の学力達成度中「関連分野基礎能力」のみは評価が「2」であっても入学させ、講義で博士の学位にふさわしい能力を身に付けさせる方式は評価できるが、講義2単位1科目のみの履修で能力の向上が図られるかは懐疑的であり、審査の段階で「3」になるような事前教育プログラムのようなシステムを導入する等の何らかの改善が必要と思われる。 なお、来年度以降については、再評価に係る基準を設けることが報告されておりその改善を期待したい。	
5	学位審査			
5.1	学位審査の基準と審査方法は適切か	A	全国レベルの査読付学会誌ないし査読付国際学術雑誌への掲載が学位審査の基準であることは評価できる。さらに今後に向けては、査読付国際学術誌への掲載（過去の掲載可とすることも検討）を学位審査の条件に入れてもよいと思われる。	
6	持続的改善			
6.1	プログラムの改善のためのシステム	B	研究科長による自己評価に加え、外部評価委員会による客観的な評価によってチェックを受けるという体制がとられているため、妥当と判断する。	

	ティックな活動が なされているか			
7	総合評価			
7.1	総合的に見たプロ グラムの評価	A	<p>1年間の履修で博士の学位を授与されるという本プログラムの趣旨からして、学力達成度の評価と論文審査の厳格な基準の適用は今後とも遵守してほしい。</p> <p>日本の大学では本学のような「早期終了プログラム」はまだ数少ないだけに、学位の質を保証するだけの教育指導が行われれば他の大学にとって好例となるだろうし、立派な教育研究の場であるということに誇りを持ってよいと思う。</p> <p>よって、当該プログラムは総合的にユニークかつ優れたプログラムであると評価される。</p>	